

AA研「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究」共同研究会
2021年3月13日

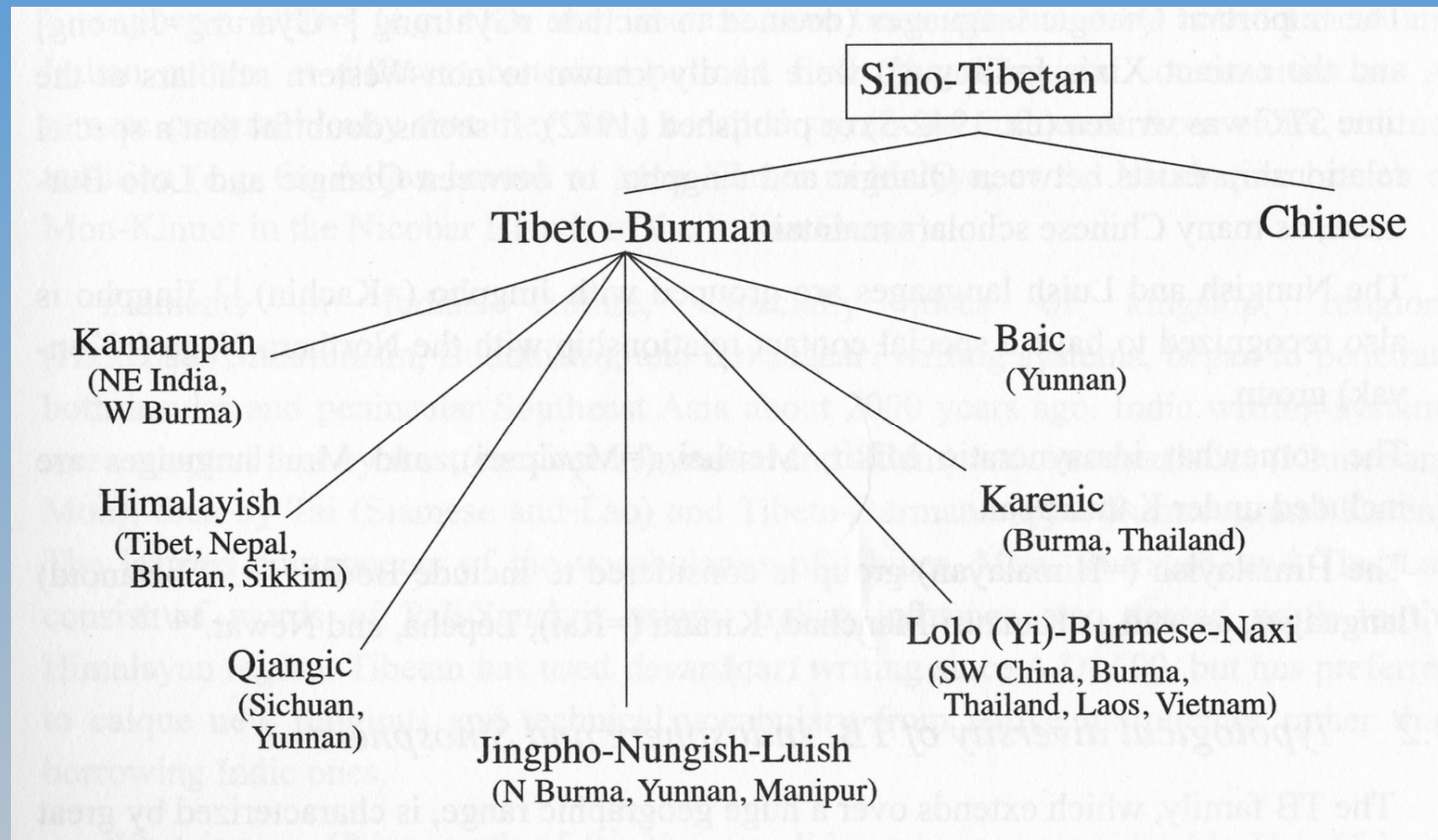
ポー・カレン語の語彙

Vocabulary in Pwo Karen

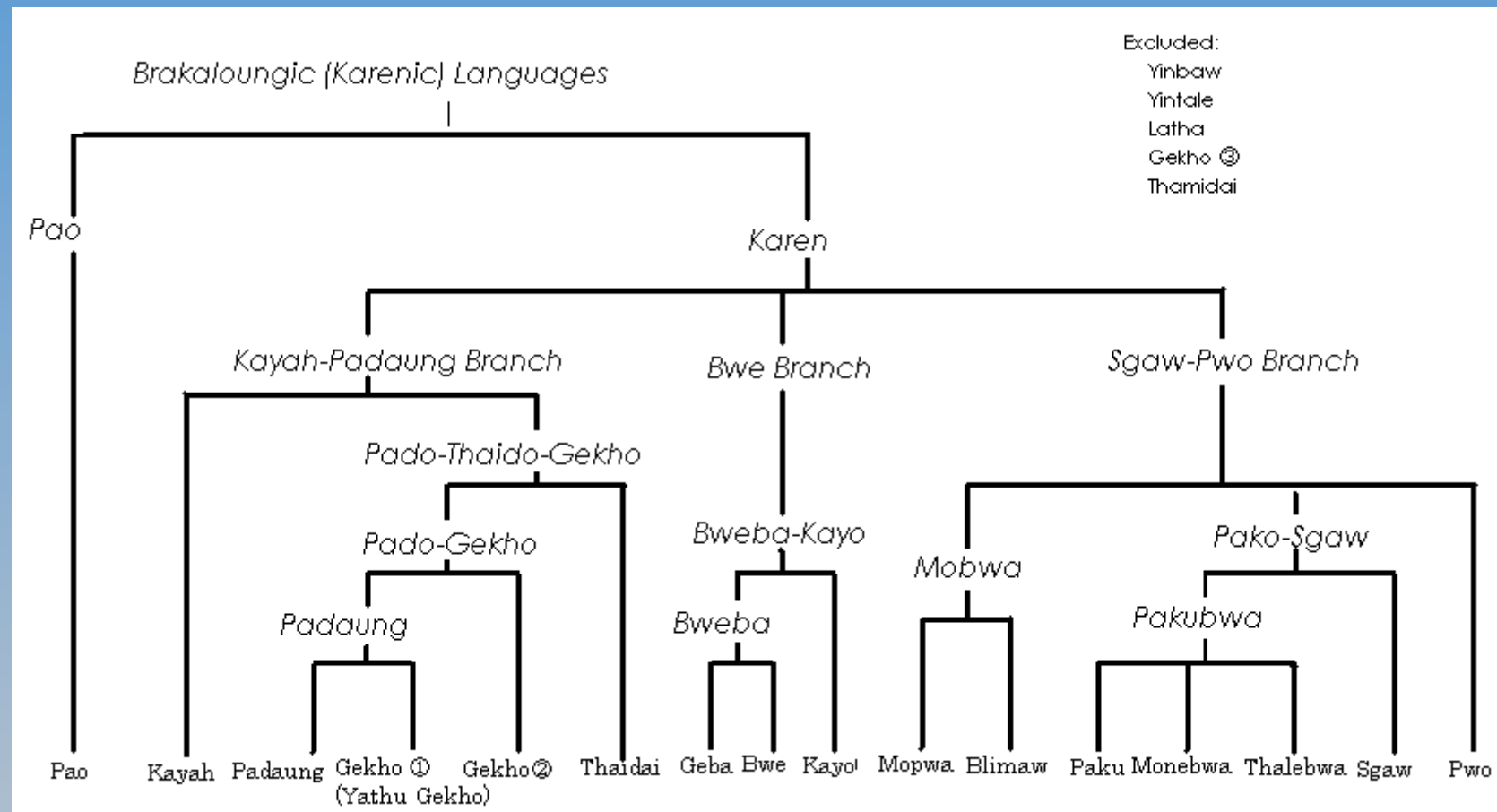
加藤昌彦

Atsuhiko Kato

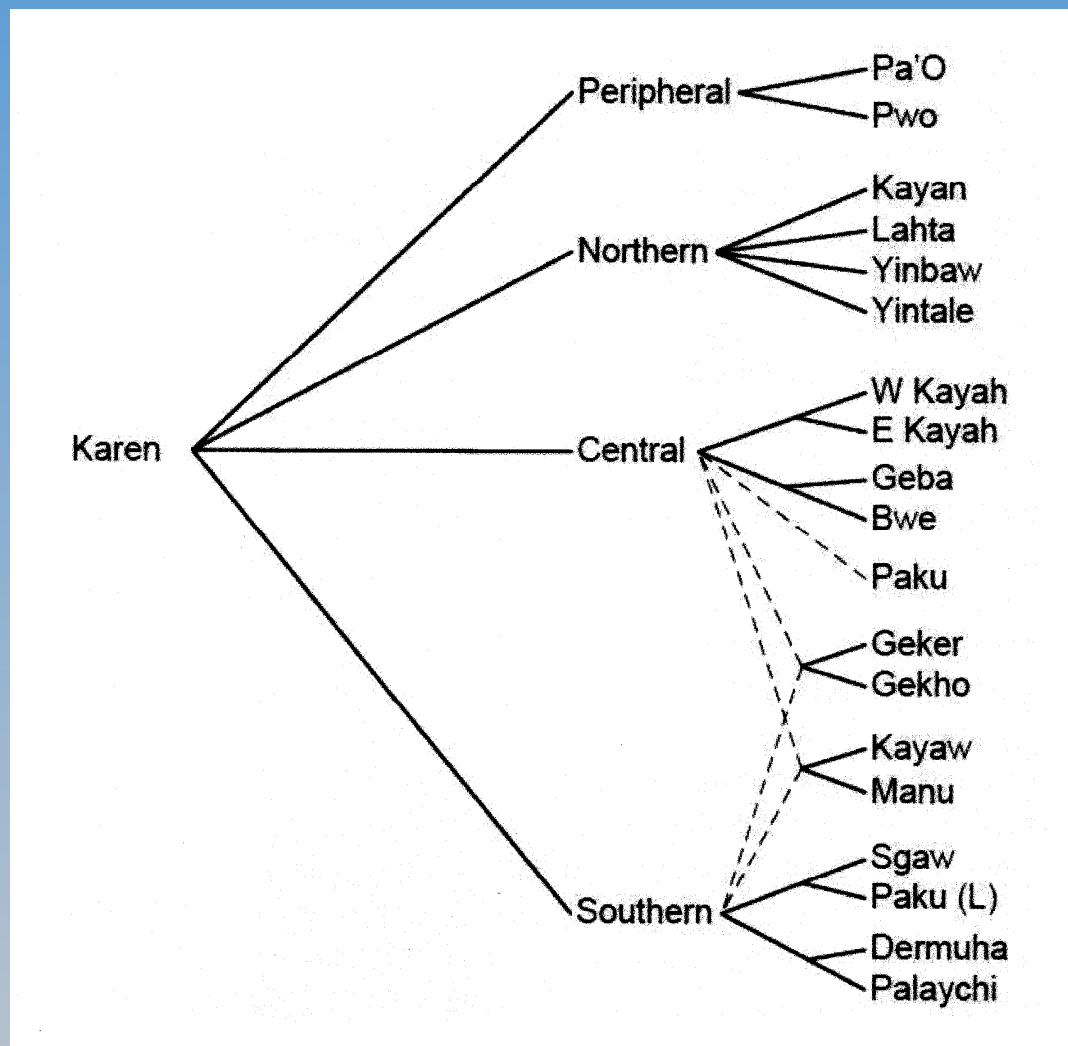
慶應義塾大学言語文化研究所



Matisoff, James A. (2003) *Handbook of Proto-Tibeto-Burman*.
Berkeley, Los Angeles and London: University of California Press.

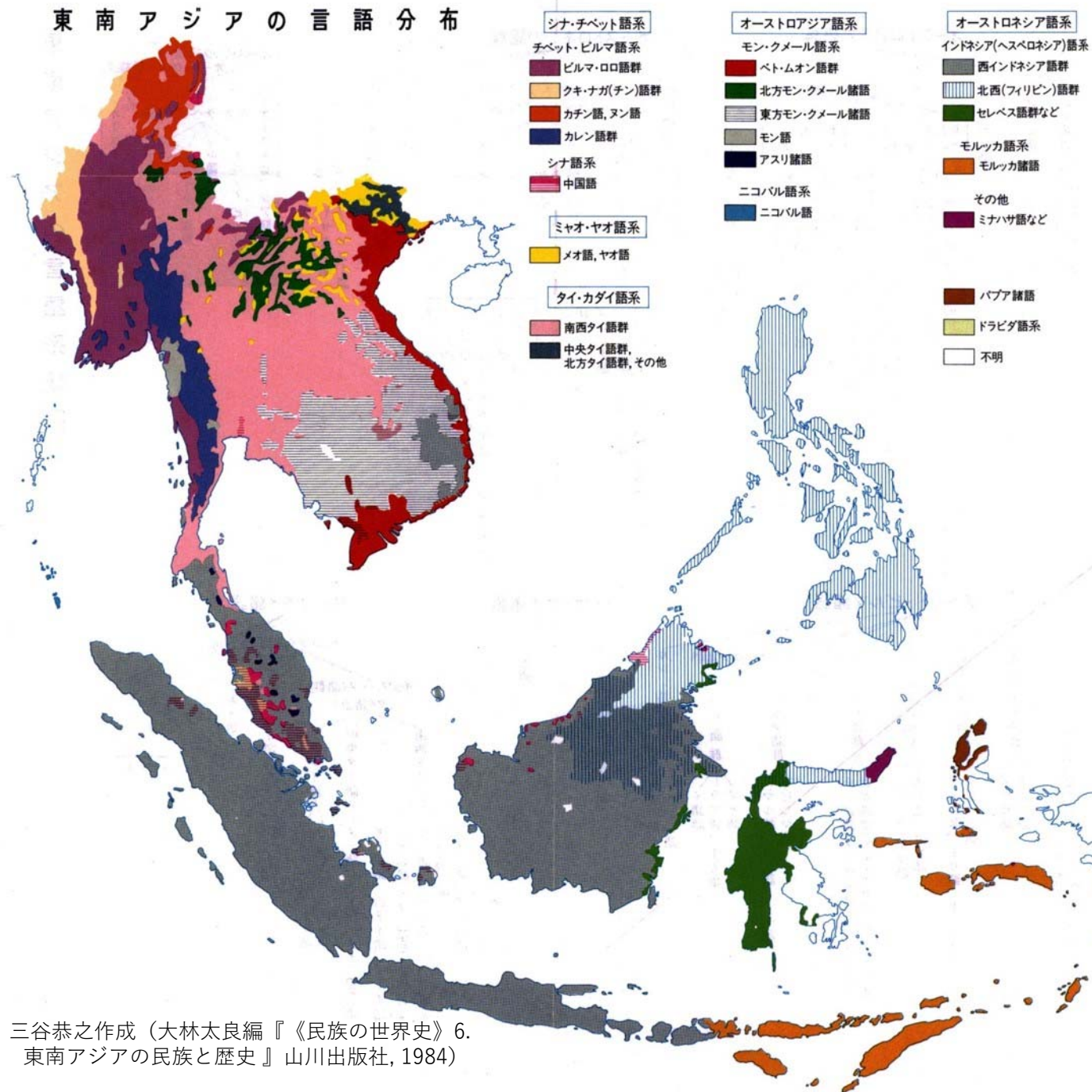


Shintani, Tadahiko (2003) Classification of Brakaloungic (Karenic) languages in relation to their tonal evolution, (In) Shigeki Kaji (ed.) *Proceedings of the Symposium Cross-linguistic Studies of Tonal Phenomena: Historical Development, Phonetics of Tone, and Descriptive Studies*, pp. 37-54. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa.



Manson, Ken (2017) The characteristics of the Karen branch of Tibeto-Burman. (In) Picus Sizhi Ding & Jamin Pelkey (eds.) *Sociohistorical Linguistics in Southeast Asia: New Horizons for Tibeto-Burman Studies in Honor of David Bradley*, pp. 149–168. Leiden/Boston: Brill.

東南アジアの言語分布



三谷恭之作成（大林太良編『《民族の世界史》6.
東南アジアの民族と歴史』山川出版社, 1984）

カレン人 (Karen, Kayin)

カレン系言語を話す人々のうち、スゴー・カレン(Sgaw Karen)とポー・カレン(Pwo Karen)を中心とするグループ。狭義にはこの2集団のみを含むが、文脈によって揺れがあり、より広い範囲を指すこともある。

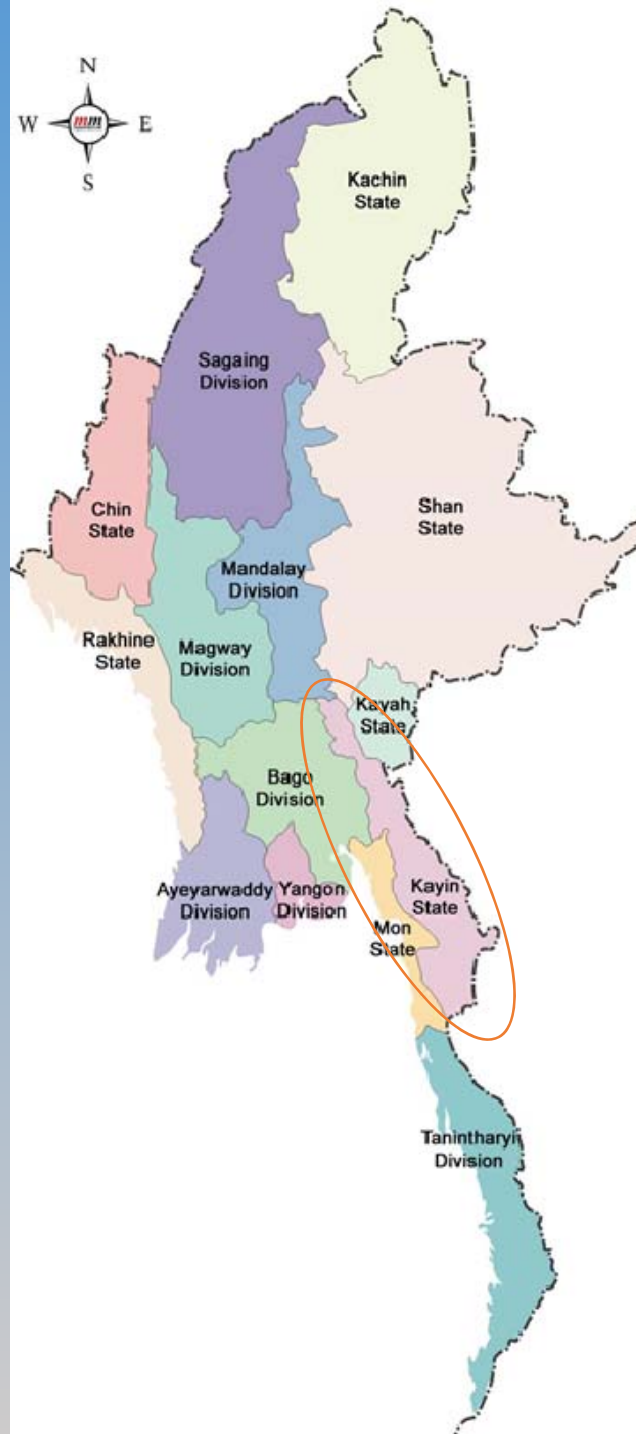
(注) カレン人という概念の「揺れ」については、

加藤昌彦(2016)「ミャンマーの諸民族と諸言語」『ICD NEWS
(法務省法務総合研究所国際協力部報)』 69:8-26

を参照されたい。



カレン (Karen, Kayin)



カレン民族解放軍のなかで LIVES IN THE KAREN STRUGGLE

西山孝純



若き日本人義勇兵の手記

激戦の続くタイ・

ビルマ国境——ビルマの民主化をめざして、カレン民族解放軍とともに銃を持って戦う日本人の若者がいた!!
彼は何を考え、何をめざして戦いに身を投じたのか。
ビルマの少数民族カレン族の苦闘とビルマ学生たちの民主化への苦闘——激動の渦のなかで戦い続ける日本人青年の驚愕の手記。

地獄の国

からの報告
加藤博

晩聲社



※ロケットロケット
軍曹が「カレン」の手を小銃で撃つ。つぼみは小銃の作戦指導を助けて、小銃で撃つ。七時四十分、最初の「カレン」の手は出た。



1995年初頭までカレン民族同盟(KNU)の総司令部があった
Manerplaw の風景 (1991年3月撮影)



Manerplaw の横を流れる Moei川。手前はKNUが実効
支配していたミャンマー側。対岸はタイ領



အောမွဲာ် ပုံအောအင်းဓးသာ ဝူဆး အိုသာအောအွာ
ကို ပုံဓးကော့ စိုဒ် အင်းဆူ ဝေ့ဗူးလှို။ ဝေ့ဏှိုသိုဝ်ဆော်. ဆို
လိုပညာ သီးယိုဝ် နိုဝ်ဆိုဆိုင် သေ့မွဲာ် အိုဟေ့ဝ် ဝူဆိုအိုသေ့
မွဲာ် အိုဟေ့ဝ် ပုံအောဓးသာ ကိုဗုဝ် ပုံဓးကော့စိုဒ် အင်းသ္မာ မာ
သောဟ် မာခိုင် လောဝ်. ဝေ့ဗူးလှို။ ဝူဗိုင်း အိုဗူးအိုဝေ့ဏှို အွာ
ဗူးအိုဝေ့သေ့အေား ပုံအောဓးသာ ဝူဆးအွာကို ဓးသုဂ်လဝ် လှို
ဆုင်းဖိုင်ကိုဟံဝ် ပုံကော့စိုဒ် အင်းဆူဆော်. တာ. အိုဝေ့ဗူးဝ်
ကံထင်း ဝူဆးအွာဆော်. လှို ။

仏教徒が使うポー・カレン文字(Eastern Pwoが使用)

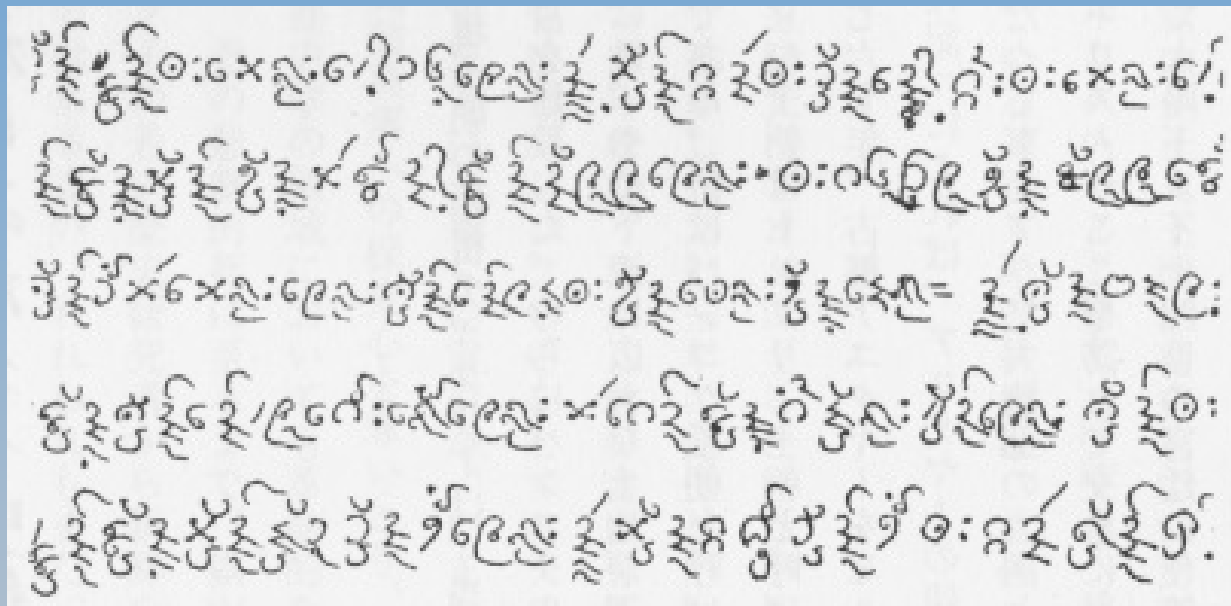
Kato, Atsuhiko (forthcoming) Pwo Karen writing systems. *Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies* 52.

GENESIS.

[illegible][illegible]

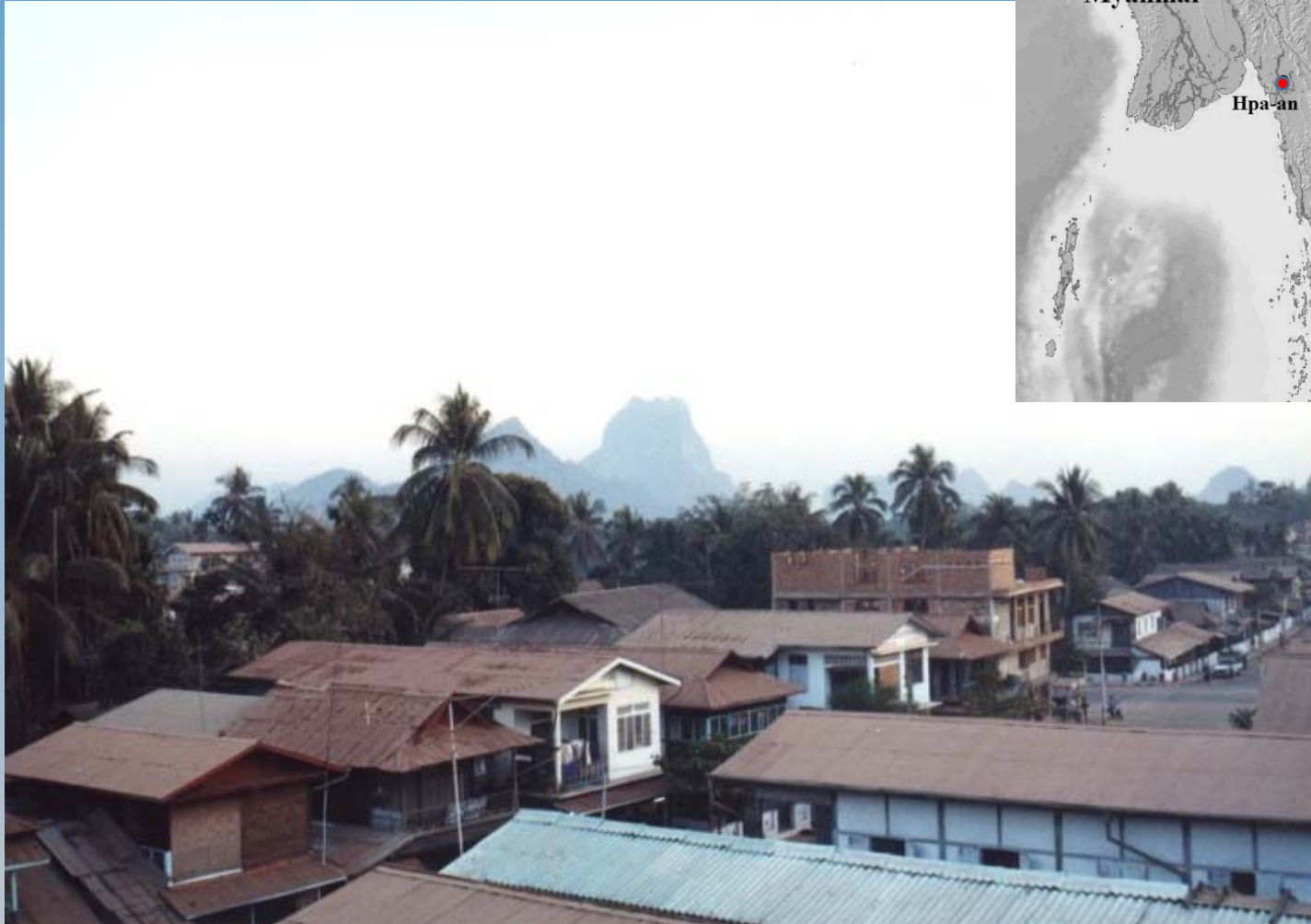
(元は Eastern Pwo のために作られたが、現在はイラワジデルタの Western Pwo の文字として知られる)

14



レーケー教徒が使うポー・カレン文字

※レーケー教(Leke)は弥勒菩薩を信仰する
カレン人独特の宗教。



カレン州(Karen State)の州都パアン(Hpa-an ဟးအံ /phǎʔàn/). ポー・カレン語では /thəʔàn/



2018/11/7



1994年撮影。カレン州はブラックエリアだったため、この頃まで特別な許可がなければ入れなかった。

















ポー・カレン語の貝葉





ポー・カレン文字の夏期講習



タイ側サンクラブリ郊外の山中のポー・カレン村

2017/12/26

Syllable structure

C1(C2)V1(V2)(C3)/(T)

Tones

à	[a11]	low-level tone
ā	[a33~334]	mid-level tone
á	[a55]	high-level tone
â	[a51]	falling tone
ə		atonic

Simple onsets (C1)

p	θ	t	c	k	ʔ
ph		th	ch	kh	
b		d			
			ɕ	x	h
				ɣ	ʁ
m		n	ɲ	ŋ	
w			j		
		l			
		r			

/p-/ [p], /θ-/ [t̪~t̪θ~θ], /t-/ [t], /c-/ [tɕ], /k-/ [k], /ʔ-/ [ʔ], /ph-/ [pʰ], /th-/ [tʰ], /ch-/ [tɕʰ], /kh-/ [kʰ], /b-/ [b~ʔb], /d-/ [d~ʔd~d], /ɕ-/ [ɕ~sʰ], /x-/ [x], /h-/ [h], /ɣ-/ [ɣ], /ʁ-/ [ʁ~ɦ], /m-/ [m], /n-/ [n], /ɲ-/ [ɲ], /ŋ-/ [ŋ], /w-/ [w], /j-/ [j~j], /l-/ [l], and /r-/ [r~ɹ]

Possible combinations of initials (C1) and medials (C2)

		C1																		
		p	θ	t	c	k	ʔ	ph	th	ch	kh	b	d	x	h	m	n	ɲ	j	l
C2	w	+	+	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
	l	+				+		+			+	+				+				
	r	+				+					+									
	j	+						+				+				+				+

Open rhymes

Monophthongs

i ĭ u
 ī ū
 e ə o
 ε a ɔ

Diphthongs

ai au

/-i/[ǝi], /-ĭ/[i], /-u/[ʊ~ǝʊ], /-ī/[I], /-ū/[U], /-e/[e], /-ə/[ə], /-o/[o], /-ε/[ε], /-a/[ä],
 /-ɔ/[ɔ], /-ai/[äi], /-au/[äʊ]

Nasalized rhymes

Monophthongs

(īN)

əN ON
 aN

Diphthongs

eiN əʊN oʊN
 aiN

/-īN/[iN~ĩ], /-əN/[əN~ẽ], /-aN/[ǣN~õ], /-ON/[oN~õ], /-eiN/[eiN~ei], /-əʊN/[əʊN~əʊ],
 /-oʊN/[oʊN~ou], /-aiN/[äiN~äĩ]

ヤ	ကရောသောဝါး [gəyo:tho:ba:] [副] 大急 ぎで, 慌てて
物	ကရင် [kəyin] [名] カレン人 (主としてサル ウィン川流域に住む。ポー族, スゴー族, パダウン族等に分れる)
取	ကရင်စကား [名] <u>カレン語 (文法構造はタ イ語に, 単語はビルマ語に近い)</u>
	ကရင်နီ [kəyin ni] [名] Red Karen カレン ニー族 (現在, ကယား: と呼んでいる)
樹	ကရင်ပြည်နယ် [kəyin pyine] [名] カレン州

原田正春・大野徹(1979)『ビルマ語辞典』日本ビルマ文化協会

語形成

品詞としては、名詞・動詞・副詞・助詞・感嘆詞を設定する。形態論レベルの手続きには、複合・重複・接辞付加の3つがある。

複合

- N+N > N

mé ‘目’ + thî ‘水’ > méthî ‘涙’

- N+V > N

lái ‘文字’ + pō ‘読む’ > láipō ‘教科書’

- V+V > V

εú ‘涼しい’ + máu ‘心地良い’ > εúmáu ‘幸福な’

- N+V > V

nā ‘耳’ + yêN ‘聞こえる’ > nāyêN ‘聞こえる’

- V+N > V

kè ‘書く’ + pərêN ‘消息’ > kèpərêN ‘(手紙を)書く’

重複

phléphlé ‘速く’ < phlé ‘速い’

ʔáʔá ‘たくさん’ < ʔá ‘多い’

yìyì ‘上手に’ < yì ‘多い’

xûxûxàNxàn ‘団結して’ < xûxàn ‘団結した’

接辞付加

● ʔə-

ʔəkhō ‘熱いもの’ < ʔə- + khō ‘熱い’

ʔədà ‘敷物’ < ʔə- + dà ‘広げる’

ʔəθá ‘果物’ < ʔə- + θá ‘実がなる’

ʔəʔwà ‘白’ < ʔə- + ʔwà ‘be white’

ʔəkhó ‘屋根’ < ʔə- + khó ‘頭’

● chə- < chō ‘事、物’

chəkhō ‘熱さ’ < chə- + khō ‘熱い’

chədón ‘囲い’ < chə- + dón ‘囲う’

chəmə ‘仕事’ < chə- + mə ‘する’

chəʔé ‘愛情’ < chə- + ʔé ‘愛する’

chəyàn ‘絵、人形’ < chə- + yàn ‘姿’

● -phó < phó ‘子’

təwânp hó ‘村人’ < təwân ‘村’ + -phó

Cf. Kato, Atsuhiko (2019) Pwo Karen. In Vittrant, Alice and Justin Watkins (eds.) *The Mainland Southeast Asia Linguistic Area*, pp. 131-175. Berlin: De Gruyter Mouton.

節の構造

基本語順はSVO。一つの動詞からなる節の構造は、(ア)のように図示できる。二項他動詞の場合、典型的にはNP1が動作者でNP2が被動者。三項動詞の場合、典型的にはNP1が動作者、NP2が受領者、NP3が対象。adverbial elementsには、副詞、側置詞句、副助詞などが含まれる。

(ア) (NP1) (verb particle(s)) V (verb particle(s)) (NP2) (NP3) (adverbial elements)
verb complex

(イ) nə mə ʔán bá kú ʔáʔá lá jə yéin phən ɛī
2SG IRR 食う (機会) 菓子 沢山 LOC 1SG 家 中 too
「あなたは私の家でたくさん菓子が食べられますよ」

IRR: 非現実法

LOC: 場所 (地点・着点・起点) を表す側置助詞(前置詞)

●動詞 (V)の位置には、(ウ)(エ)のような連結型動詞連続(concatenated-type verb serialization)が現れ得る。この構造では、(エ)のような「他動詞+自動詞」の組み合わせのとき、V1の目的語項とV2の主語項が同一になる。それ以外の場合、V1とV2の主語項は常に同一である。

●前ページ(ア)の構造の後には、さらに動詞が現れ得る。これを分離型動詞連続(separated-type verb serialization)と呼ぶ。分離型動詞連続のV2は、(オ)のようにV1が表す動作の意図せぬ結果を表す場合と、(カ)のように可能を表す場合とがある。

(ウ) jə ʔánphôn ʔán θân thòjá
1SG 炊く 食べる おかず 豚肉
「私は豚肉のおかずを作って食べた」

(エ) jə dó θi phùthân
1SG 叩く 死ぬ 熊
「私は熊を殴り殺した」

(オ) jə ʔán mì blè jào
1SG 食べる ご飯 満腹な (完了)
「私はご飯を食べて満腹になった」

(カ) jə nân kā θi
1SG 運転する 車 できる
「私は車を運転することができる」

切断を表す動詞

dán	ナイフ等で垂直に切る
phé	ナイフや斧で水平に切る
kàu	ナイフ等を引いて切る
thái	ハサミで切る
kətài	ノコギリで切る
klón	鉋(なた)等で力を込めて切る
xân	薄くスライスする
θwân	(長い刀をビュンビュン振り回して雑草等を)切る

切られる対象に生じる結果が明かな場合、(ア)(イ)(ウ)のように、V1(tr.) + V2(intr.)という組み合わせの動詞連続を用い、当該の結果をV2で表すことが多い。この「結果」は動作者によって目論まれた結果である。

(ア) phé thé θéiN
切る 切れる 木
「木を切る」

(イ) phé θī thókò
切る 死ぬ サイチョウ
「サイチョウを切り殺す」

(ウ) phjā ljāN thài nó pə bá phé prāN
僧院 敷地 下 TOP 1PL must 切る きれいな
「僧院の境内は(草を刈って)きれいにしなければならない」

(エ) jə phé θī kò mèiN dè
1SG 切る できる every 種 every
「私は何でも切ることができる」

洗淨を表す動詞

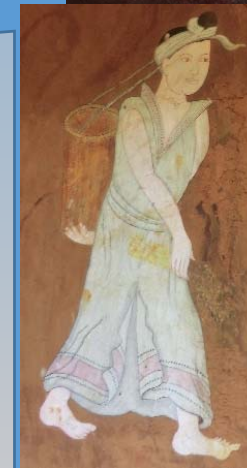
(ʔán)θîjà	手、足、皿、その他を
ʔánchuĩwà	服を
ʔánphlũ	頭を
phlā	顔を
ʔánlũ thî	水浴びする。thî は「水」。

注：第1音節が ʔán で始まる動詞がポー・カレン語には多い。ʔán は単独では「食べる」の意を表す。元々は何らかの機能を担っていたと考えられるが、化石化している。最初の例のように ʔán があってもなくてもよい動詞もある。他のカレン系諸言語にも「食べる」と同音の音節で始まる動詞がポー・カレン語ほどではないが散見されるので、おそらくカレン祖語に、動詞の前に「食べる」の意を表す動詞を置いて何らかの意味を表す用法が存在したのだろう。他に、ʔánxuĩ「探す」、ʔánmànĩ「取る」、ʔánlá「叱る」、ʔányuí「盗む」、ʔánbuĩ「育てる」、ʔánluĩ「干す」、ʔánnàn「分ける」、ʔánchâ「売る」、ʔáncà「尋ねる」、ʔánbò「(虫が)たかる」、ʔánkó「非難する」、ʔánkèin「頼む」、ʔánmôn「命令する」等々。

Cf. 春日淳(2018)「ベトナム語の動詞ăn「食べる」に他の動詞が複合したăn + V の意味と機能について」慶應義塾大学東南アジア諸言語研究会における発表。

「運搬」に関わる動詞

chó	手や腕で持ち上げる；手や腕で保持する (一般的な運搬にも使われる)
jò	肩に担ぐ；肩で保持する
tàN	頭の上に載せる；頭の上で保持する
phuí	背負う；背中に保持する
?wí	長い紐のついた物を頭にぶらさげる；頭にぶらさげたまま保持する（典型的には nàin「提げ籠」を運ぶ時に使う）
chwâin	長い紐のついた物を肩にぶらさげる；肩にぶらさげたまま保持する。
phədi	舟、牛車、トラック等に載せる；載せて保持する。
phòUNYôUN	抱える；抱えて保持する



前ページに示した運搬に関わる動詞は、意味的に移動を含まない。したがって、(オ)は不可。着点を表す名詞を節内に導入するには、(ア)–(エ)のように、移動を表す動詞を共起させる必要がある。

(ア) yê chό θéinmũ lá yéin phèn
来る 持ち上げる 薪 LOC 家 中
「薪を家の中に運んで来てください」

(イ) lì chό θéinmũ lá yéin phèn
行く 持ち上げる 薪 LOC 家 中
「薪を家の中に運んで行ってください」

(ウ) thàin chό θéinmũ lá yéin phèn
来る 持ち上げる 薪 LOC 家 中
「薪を家の中に持ち帰ってください」

(エ) yê thàin chό θéinmũ lá yéin phèn
来る 帰る 持ち上げる 薪 LOC 家 中
「薪を家の中に持ち帰って来てください」

(オ) *chό θéinmũ lá yéin phèn
持ち上げる 薪 LOC 家 中
意図した意味：「薪を家の中に運んでください」 ※「家の中で薪を持ち上げる」の意なら可

場所の表し方

前置詞 *lá* は、地点・着点・起点のいずれをも表す。(ア)は場所としての解釈のみ可能だが、(イ)や(ウ)のように移動を表す動詞と共に現れた場合、着点・起点のいずれの読みも可能(ただし、(イ)は着点として解されることが多いようである)。

(ア) *ʔəwê ʔó lá thəʔàn*
3SG いる LOC パアン
「彼はパアンにいる」

(イ) *ʔəwê lì lá thəʔàn*
3SG 行く LOC パアン
「彼はパアンに行く」「彼はパアンから行く」

(ウ) *ʔəwê yê lá thəʔàn*
3SG 来る LOC パアン
「彼はパアンに来る」「彼はパアンから来る」

着点・起点の解釈を容易にするため、次のように、jò「この」・ʔò「あの」を名詞の後に置くことがよくある。

(エ) ʔəwê yê lá thəʔàN jò
3SG 来る LOC パアン この
「彼はパアンに来た」

(オ) ʔəwê yê lá thəʔàN ʔò
3SG 来る LOC パアン あの
「彼はパアンから来た」

さらに、次の(カ)(キ)のように、2つの節を用いると、明確に起点と着点を表すことができる。これらは文字通りには、「彼はパアンにいて、それから行った」「彼はパアンにいて、それからヤンゴンに行った」を意味する。「ʔó lá A地点 (yòN), 移動動詞 (lá B地点)」が「Aから(Bへ)行く／来る」を表す定型表現になっている。

(カ) ʔəwê ʔó lá thəʔàN (yòN), lì
3SG いる LOC パアン ～して 行く
「彼はパアンから行った」

(キ) ʔəwê ʔó lá thəʔàN (yòN), lì lá ləkōUN
3SG いる LOC パアン ～して 行く LOC ヤンゴン
「彼はパアンからヤンゴンに行った」

Cf. 加藤昌彦(2010)「ポー・カレン語の「格」」澤田英夫(編)『チベット=ビルマ系言語の文法現象1: 格とその周辺』pp. 311-330. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

色彩を表す動詞

Cf. ꠊəjôn 「色」 < Burmese ꠊăyàun

ꠊwà	白い
θôn	黒い
ꠊò (wò)	赤い
bàn	黄色い
jī	緑色の
pjàu	(灰色っぽい色や茶色っぽい色を含む)くすんだ色の
lâ	青い
làu ?	茶色い Cf. xà ?

※下2つ(lâ 「青い」 と làu 「茶色い」)は対面調査では出てきにくい。

調理に関する動作を表す動詞

ʔánp̚hôn	(米を)炊く；料理する
ʔánxwī	煮る
tō̯UN	トロトロに煮込む Cf. Mon <i>tom</i> , Thai <i>tôm</i>
ʔánxú	あぶる
ʔánká	焼く
ʔánxwī	ゆでる
ʔánwé	煎る
ʔánxâin	いぶす
cô̯	炒める、揚げる < Burmese <i>cô̯</i>
ʔánc̚hè	炒める、揚げる (あまり使われない)
ʔányô̯UN	蒸す
ʔánb̚èn	(魚や餅米を)木の葉に包んで蒸し焼きにする
d̚òN	火にかける

味を表す動詞

Cf. ʔəljɔ̃, ʔəljɔ̃θâ 「味」 < Mon ṣ̌ [ròh], ṣ̌ɔ̃ [ròhsa] < Pali *rasa*
 モン語形式は、坂本恭章(1994)『モン語辞典』(AA研)に拠る

chôn	甘い
yân	塩辛い
yé	辛い
cháin	酸っぱい
khá	苦い
kài	渋い
ʔwí	おいしい
ʔwíθú	コクがあっておいしい < ʔwí 美味な + θú 油
ʔwíchôn	甘くておいしい < ʔwí 美味な + chôn 甘い
chônkhléin	甘くて冷たい < chôn 甘い + khléin 冷たい

きょうだいを表す名詞

wɛ̃khwâ	兄 (wɛ̃「年上のきょうだい」 + -khwâ「男」)
wɛ̃muí	姉 (wɛ̃「年上のきょうだい」 + -muí「女」)
phuĩkhwâ	弟 (phuĩ「年下のきょうだい」 + -khwâ「男」)
phuĩmuí	妹 (phuĩ「年下のきょうだい」 + -muí「女」)

Cf. ʔəkhwâ 「男」
ʔəmuí 「女」

日月食

ポー・カレン語には chə「物」を主語位置に置く非人称構文(impersonal construction)がある。自然現象にはこの非人称構文を用いて表されるものが少なくない。(スゴー・カレン語も同様)

月食が起きる	chə ʔánjuī là 物 飲み込む 月
日食が起きる	chə ʔánjuī muīmé 物 飲み込む 太陽
Cf.	
雨が降る	chə chən 物 (雨が)降る
暑い	chə khō 物 暑い
埃っぽい	chə khuí 物 煙る
雷が光る	lân wēdài 雷 稲光がする

Kato, Atsuhiko (forthcoming) Impersonal construction with the noun 'thing' in subject position in Pwo Karen. In Norihiko Hayashi (ed.) *Topics in Middle Mekong Linguistics (2)*. Kobe: Kobe City University of Foreign Studies.

	inchoative (自動詞)	causative (他動詞)	対応の種類
1. boil	khṓ thán	mà khṓ thán	C
2. freeze	khólón	mà khólón	C
3. dry	xāin	mà xāin	C
4. wake up	nó thán	mà nó thán	C
5. go out/put out	cáin thán (go outside) lànphái (as fire)	thào thán (put out side) mà lànphái (as fire)	S C
6. sink	làn bòn	bòn làn	E
7. learn/teach	màlú	màlú	L
8. melt	phlī	mà phlī	C
9. stop	pətháo	mà pətháo	C
10. turn	ʔútərai	mà ʔútərai	C
11. dissolve	phlī	mà phlī	C
12. burn	khṓ yó	mà khṓ yó	C
13. destroy	yà yòn	mà yà yòn	C
14. fill	xwè	mà xwè	C
15. finish	yòn	mà yòn	C
16. begin	tài thán	tài thán	L
17. spread	lḗ thán	mà lḗ thán	C
18. roll	lànkhlēin (θà)	khlēin	E
19. develop	dó thán	mà dó thán	C
20. get lost/ lose	làn mā	mà làn mā	C
21. rise/raise	thán	bò thán	C
22. improve	yì thán	mà yì thán	C
23. rock	wàthó	mà wàthó	C
24. connect	bào	thò bào	C
25. change	ʔánlè θà	ʔánlè	A
26. gather	pəkòon θà	pəkòon	A
27. open	pào thán θà	pào thán	A
28. break	yà yòn	mà yà yòn	C
29. close	bài	khà bài	C
30. split	théphà	mà théphà	C
31. die/kill	thī	mà thī	C

自他対応

Haspelmath (1993)の自他動詞31対
に対応するポー・カレン語

C = causative alternation

自動詞が基本 (太字で表示)

A = anticausative alternation

他動詞が基本 (太字で表示)

E = equipollent alternation

自他ともに同じ語幹から派生

S = suppletive alternation

自他動詞の形が無関係

L = labile alternation

自他動詞が同形

Haspelmath, Martin (1993) More on the typology of inchoative/causative verb alternations. (In) Bernard Comrie & Maria Polinsky (eds.) *Causatives and Transitivity*, pp. 87-120 Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company.

Kato, Atsuhiko (2019) The middle marker in Pwo Karen. *Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies* 50, pp. 21-62.

Causative alternationの例

(ア) já xâiN
魚 乾く
「魚が乾いた」

(イ) jə mə xâiN já
1SG CAUS 乾く 魚
「私は干し魚を作った」(CAUS:使役助詞)

Anticausative alternationの例

(ウ) pàintərân pàu thán θà
窓 あける up MID
「窓があいた」(MID:中動態標識)

(エ) jə pàu thán pàintərân
1SG あける up 窓
「私は窓をあけた」

「好む」の表し方 ----- 一筋縄ではいかない

人間を愛する感情は動詞 ʔé を用いて表す。

- (ア) eáphàn ʔé phœú
(人名) 愛する (人名)
「シャーパウンはポーシュエのことが好きだ」

物が好きな場合には表現に工夫が必要。

- (イ) jə ʔán θân thòjá ʔwí
1SG 食べる おかず 豚肉 おいしい
「私は豚肉のおかずが好きだ」

- (ウ) jə jōphèn chəyàn mên máu
1SG 見る 映画 心地良い
「私は映画を見るのが好きだ」

- (エ) chəkhléin nó jə cáí ʔé
寒さ TOP 1SG 好む NEG
「私は寒いのが好きではない」 (cái < Burmese *cai*?)

- (エ') chəkhléin nó jə ʔé pəθài ʔé
寒さ TOP 1SG 愛する あまり NEG
「私は寒さをあまり愛さない」

においを表す動詞の多さ

動詞	語構成
nə̌n 「におう」	-----
nə̌nmə̌n 「香ばしい」	nə̌n + mə̌n 「生きている」
nə̌nʔú 「腐臭がする」	nə̌n + ʔú 「腐った」
nə̌ncháin 「すっぱいにおいがする」	nə̌n + cháin 「すっぱい」
nə̌nkáin 「香ばしい」	nə̌n + káin 「？」
nə̌nxú 「こげくさい」	nə̌n + xú 「< ʔánxú 焙る」 Cf. Burmese <i>hɲɔ̀</i>
nə̌nphâin 「泥くさい、どぶくさい」	nə̌n + phâin 「？」
nə̌nʔə̌u 「刺激臭がする」	nə̌n + ʔə̌u 「？」
nə̌nphə̌n 「南京虫くさい」	nə̌n + phə̌n 「南京虫」
nə̌ncí 「すえたにおいがする」	nə̌n + cí 「？」 ※腐り始めた料理、生乾きのシャツなど
nə̌ncháinbàn 「すっぱい刺激臭がする」	nə̌n + cháin 「すっぱい」 + bàn 「黄色い」 ※酒臭さなど
nə̌nʔí 「大便くさい；おならをする」	nə̌n + ʔí 「大便」
nə̌nkhɬʔí 「牛の糞のにおいがする」	nə̌n + khɬʔí 「牛」 + ʔí 「大便」
nə̌nmílū 「煙くさい」	nə̌n + mí 「火」 + lū 「声？」
nə̌nxí 「生ぐさい」	nə̌n + xí 「？」
nə̌nyân 「汗くさい」	nə̌n + yân 「塩辛い」
nə̌nkhə̌wê 「汗くさい」	nə̌n + khə̌wê 「汗」
nə̌nθêin 「青くさい」	nə̌n + θêin 「生の」
nə̌nθú 「小便くさい」	nə̌n + θú 「？」
nə̌nθə̌lèθə̌khà 「激臭がする」	nə̌n + θə̌lèθə̌khà 「？」
nə̌nkhá 「苦いにおいがする」	nə̌n + khá 「苦い」
nə̌nthàʔí 「さびくさい」	nə̌n + thà 「鉄」 + ʔí 「大便」
nə̌nkí 「カビくさい」	nə̌n + kí 「？」

● 「Xのにおいがする」
は、nə̌n X cò̌n と言う。

例) nə̌n búukhé cò̌n
におう corn におい
「トウモロコシのにお
いがする」

nə̌nの後に名詞だけを置く
のは不可 *nə̌n búukhé。
これ以外に、nə̌n dè Xと
言うのも可(dè は共格)。

例) nə̌n dè búukhé
におう with corn
「トウモロコシのにお
いがする」

● nə̌n の後に動詞を自由
に置くことはできない。
例えば「甘いにおいがす
る」を*nə̌n chə̌n (におう -
甘い)と言うことはできな
い。

● したがって、表に挙げ
た諸例は、生産的な形態
統語的手続きを経て作ら
れたものではなく、固定
した単語である。

強調語

1音節からなる動詞Xがあったとき、その後に1～3音節からなる要素Yを付加した形からなる動詞XYがあり、さらにそのXYがXの意味を強調する意味を表すとき、このXYを「強調語」と呼んでおく。Yの部分の語源はほとんどの場合、不明である。強調語は日常会話で多用される。

元の動詞	強調語	備考
ʔwà「白い」	ʔwàθêin「非常に白い、真っ白な」	
θôn「黒い」	θônɲəjôn「非常に黒い、真っ黒な」	
ɣò「赤い」	ɣòcò「非常に赤い、真っ赤な」	
bàn「黄色い」	bànpháin「非常に黄色い、真っ黄色な」	
jī「緑色の」	jīklí「濃い緑色の」	
cà「少ない」	càkhó「非常に少ない」	ʔá「多い」に強調語はない
jɔ́「易しい」	jɔ́kákai「非常に簡単な」	
ká「難しい」	kákhí「非常に難しい」	
bón「太った」	bónʔuí「非常に太った」	
xwɛ́「痩せた」	xwɛ́kè「非常に痩せた、やせ細った」	
bào「近い」	bàokhó「非常に近い」	
jàin「遠い」	jàinjó「非常に遠い」※jóは「深い」と同形	
ʔwi「のろい」	ʔwico「非常に遅い」	phlé「速い」に強調語はない
yân「塩辛い」	yântuì「非常に塩辛い」	
ɣé「からい」	ɣécò「非常にからい」	chôn「甘い」、khá「苦い」に強調語はない
cháin「すっぱい」	cháinpí「非常にすっぱい」	
pí「小さい」	píkhó「非常に小さい」	dó「大きい」に強調語はない
ʔéin「狭い」	ʔéintêin, ʔéinkhó「非常に狭い、狭苦しい」	lɛ́「広い」に強調語はない

(次ページへ続く)

強調語（続き）

元の動詞	強調語	備考
cā 「年取った」	cākè 「非常に年取った、老いさらばえた」	
bán 「若い」	bánklán 「非常に若い」	
bán 「(果物が)若い」	bánphlái 「(果物が)熟し切っていない」	
khài 「暗い」	khàituī, khàicào 「非常に暗い、真っ暗な」	
phàn 「明るい」	phànmân 「非常に明るい、輝く」	
phí 「短い、低い」	phíkhó 「非常に短い、非常に低い」	thó 「長い、高い」の強調語はない
blà 「(味が)薄い」	blàchwà 「(味が)非常に薄い」	
dà 「(味が)濃い」	dàpəwái, dàdòu 「(味が)非常に濃い」	
tán 「厚い」	tánməlùthui 「非常に厚い、ぶ厚い」	bòn 「薄い」の強調語はない
khlán 「ゆるい」	khlánpèpò 「非常にゆるい、ゆるゆるの」	kəthái 「きつい」の強調語はない
phlī 「なめらかな」	phlīáikài 「つるつるの、すべすべの」	「粗い」を表す単語はない
lì 「古い」	lìpjào 「非常に古い、古びた」	
thân 「新しい」	thânchéinchó 「非常に新しい、真新しい」	
pháo 「柔らかい」	pháo láokào 「非常にやわらかい、ふわふわの」	
nòn 「固い」	nònkhlēin 「非常に固い」	
chón 「固い」(餅等)	chónthī 「(餅が)非常に固い」	
cán 「貧しい」	cánthôn 「非常に貧しい、赤貧の」	「豊かな」を表す単語はない
thào 「うるさい」	thàokəlò, thàokəlì 「非常にうるさい」	juǐjèin 「静かな」の強調語はない
xwī 「軽い」	xwīlákài 「非常に軽い」	xón 「重い」の強調語はない
khléin 「寒い」	khléinchó 「非常に寒い」	
khō 「暑い」	khōlào 「非常に暑い」	

イオン化 (ionization) と単語の意味の希薄化

複合語を引き離し、引き離された要素に統語的操作を施す現象(Chao 1968: 159-160)。ポー・カレン語でも対句表現にイオン化が非常に頻繁に見られる。

(ア) xúxàn → ?ó xú ?ó xàn
団結した いる 団結した いる 平らな
「協調している」

イオン化において、引き離された一方の要素が単独では意味を持たないことが多数ある。

(イ) thìθò → dè thì dè θò (ウ) eúbà → ?ó eú ?ó bà
友人 with ? with 友 平和な いる 涼しい いる ?
「友人と」 「平和に暮らす」

宮岡(2002)は、分析的な言語において意味が希薄化した形式が統語的に単語として振舞う現象を指摘し、これを分析性の極端なケースと位置づけることができるという。宮岡は次のような図を示す(p. 142)。

polysynthesis(複統合性) ← 統合度 → analysis(分析性) → dilution(希薄化)

ポー・カレン語の(イ)の thì や(ウ)の bà のような例は宮岡の言う希薄化の例と考えることができる(加藤 2005)。単語の中に様々な形態素が入り込み、そのため一語の中に様々な意味が入り込むのが複統合性の特徴である。逆に**分析性(孤立性)が高いと、一語が担う意味の量が少ない。(イ)の thì や(ウ)の bà はその傾向がさらに極端になったものであると見なせる。**

Chao, Yuen Ren (1968) *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley and Los Angeles: Univ. of California Press.

加藤昌彦(2005)「ポー・カレン語の対句法(parallelism)」中山俊秀・塩原朝子(編)『記述研究から明らかになる文法の諸問題』pp.145-159. 東京: アジア・アフリカ言語文化研究所.

宮岡伯人(2002)『「語」とはなにか——エスキモー語から日本語をみる』東京: 三省堂.

まとめ

ポー・カレン語の語彙の特徴について観察した。本発表で指摘したことのうち注目すべき点を挙げておく。

- ポー・カレン語の語形成には複合・重複・接辞付加がある。接辞の数は少ない。
- 運搬を表す動詞の意味に場所の移動は含まれない。
- 自然現象の表現に非人称構文が使われることがある。
- 自他対応においてはcausative alternationが優勢であるが、中動態標識を用いたanticausative alternationも見られる。
- においを表す動詞が多い。
- 強調語が多用される。
- イオン化現象において意味の希薄化した単語が多数観察される。

謝辞

調査に協力してくださった下記の方々に感謝します。

Saw Hla Chit

Saw Khin Maung Aye

Naw Snow Paw

အိုဆင်းလာဆာကိုဝ်ဟာဗျေ။